



羽咋市役所ロビーに設置している藤岡市紹介ブース



### 藤岡市の魅力を紹介 市役所ロビーに紹介ブースを設置

羽咋市と藤岡市は、3月3日に姉妹都市提携40周年を迎えました。これを記念し、羽咋市役所ロビーに藤岡市を紹介するブースを設置しました。ブースには観光や文化を紹介するポスターやパンフレットを配置し、来庁者に藤岡市の魅力を広く発信しています。

今後は記念事業として、8月にeスポーツ交流大会を開催し、幅広い世代を対象とした交流事業を実施する他、両市の文化協会による特色ある芸術や伝統を紹介する展示の企画など、多様な分野での交流を行う予定です。

両市のこれまでの交流の歩みを振り返ると共に、今後のさらなる交流の広がりを期待しています。

## ふじおか Culture

～藤岡の文化を探る～

【問い合わせ 文化財保護課 (☎235997)】

No.115

町田菊次郎と言えば、高山社の第2代社長として高山社蚕業学校の設立に尽力し、蚕業学校の初代校長を務めた人物として知られています。授業員制度や分教場制度を整備し、高山社の骨格を完成させるとともに、高山社の最盛期と言える時代を築きました。高山長五郎の遺志を継ぎ藤岡町に高山社を移したのも菊次郎です。同時に、近代養蚕の発展のために精力的に活動し、「養蚕法」や「最近養蚕法」などを著して、清温育のマニュアル化に寄与しました。私たちはこれらを頼りに清温育を復元することができ、現代にまで伝わる功績であったといえます。菊次郎の蚕業家としての面には、高山社跡の世界遺産登録により改めて脚光が当たることになりました。

一方で、他の側面についてはどうでしょうか。1954年発行の「群馬県蚕業史」の巻末「人物篇」には菊次郎の功績が記載されています。

蚕業の清温育の発展に関する活躍に加え、農商務省や県の嘱託として国外の蚕糸業の視察や、博覧会や品評会の審査を務めて品質や技術の向上に貢献をしたり、藤岡銀行の頭取や群馬県農工銀行の取締役にも就任したりと、公人・実業家・経済人として多方面で活躍したことがうかがえます。

しかし、菊次郎のこうした功績に関わる資料はほとんど残さず、不明な点は多くあります。菊次郎のさまざまな側面を明らかにするには、まだ時間が必要です。菊次郎の功績に関心が高まり、資料が広く集まることを期待しています。



町田菊次郎翁像

### 町田菊次郎

～不明点の多い実像～

## 教えて！消費生活

### 消費生活センターの紹介

**Q** 消費生活センターについて教えてください。消費者トラブルに遭った場合、消費生活センターに行くようにと勧められますが、どのような相談ができて、どのようなことをしてくれるのでしょうか。

また、相談する前に準備しておく良いものがありますか。守秘義務は守られるのかも心配です。

**A** 消費生活センターは、行政サービスの一環として運営しており、平日午前9時から午後4時まで相談を受け付けています。契約や取引、消費生活に関する消費者と事業者間のトラブルや、個人の借金に関することなどを相談することができ、消費生活相談員が自主交渉の方法や具体的な解決策を助言します。必要に応じて、事業者との交渉の手伝いをすることもあり、専門家の支援が必要な場合には、適した機関を紹介します。

相談する際には、契約書、関係書類、事業者の名称・連絡先などを整理しておくスムーズです。なお、来所する場合は予約が必要です。相談員には法令に基づく守秘義務がありますので、安心して相談してください。

消費生活の相談は市消費生活センター ☎fax 兼用 201133 (来庁相談要予約) 相談時間 平日午前9時～午後4時

## ごみを減らす・分ける・生かす

—安心して生活できる環境を次世代へ—



### 第1回 藤岡市のごみ処理の歴史と現在の課題

今月号からは、広報紙の紙面で、市のごみに関するさまざまな情報をコラムを通じて紹介していきます。第1回は、市のごみ処理の歴史と現在の課題について紹介します。

ごみの焼却は昭和41年に稼働を開始した清掃工場から始まり、昭和61年に現在の清掃センターに建て替えられ、今日まで60年の歴史があります。現在、私たちが抱える課題は施設の老朽化と、今後の循環型社会への対応です。

まず、施設の老朽化についてです。現在の清掃センターは稼働開始から40年が過ぎ、老朽化が進んでいることから、焼却設備のリニューアルを計画しているところです。しかし、施設のリニューアルなどにかかる建設コストが上昇しており、施設整備を行う上で懸念材料になっています。

次に、循環型社会への対応ですが、資源の分別とごみの減量化を推進する必要があります。資源の少ない日本では、ごみのことを「都市鉱山」と呼びます。ごみの中には多くの資源が分別されずに眠っているためです。資源としてリサイクルできる物をしっかり分別することで、焼却するごみの量が減り、二酸化炭素発生量を減らす事に加えて焼却コストの削減にもつながります。

次回からは、ごみの分け方や捨て方を中心に、市民の皆さんが手軽に実践できるSDGsの取り組みを紹介していきます。

### 〈知ってもらいたい「ごみ」のこと〉

▷市で発生するごみの量は、年間2万3,000tにのぼり、処理に10億円もお金がかかっています

▷正しく分別をすることで、ごみの量は減らすことができます



問い合わせ 清掃センター (☎238305)